

2022 年天皇杯全日本選手権

各階級展望

12 月 22 日（木）～25 日（日）：東京・駒沢体育館

オリンピック実施階級は、この大会と来年 6 月の明治杯全日本選抜選手権で優勝すれば、世界選手権の代表に決定。別の選手が優勝すれば、2 人のチャンピオンによってプレーオフが行われ、勝った選手が代表へ。世界選手権で 3 位以内に入れば、2024 年パリ・オリンピックの代表に内定する。

（非オリンピック階級の代表決定方法を含めた詳細規定は、末尾に掲載してあります）

日本レスリング協会ホームページ： <https://www.japan-wrestling.jp/>

日本レスリング協会 選手&大会データベース： <https://db.japan-wrestling.jp/>

◎男子フリースタイル

【57kg 級】

世界選手権 61kg 級で優勝した樋口黎（ミキハウス）が階級を下げてエントリー。昨年、61kg 級世界 3 位で今年のこの階級の代表の長谷川敏裕（三恵海運）に挑む形となった。さらに、東京オリンピック代表の高橋侑希（山梨学院大職）が復帰参戦を決め、世界トップの 3 選手による激しい闘いが展開されそう。

他に、昨年世界 7 位の阿部敏弥（国士舘大職）、昨年のアジア選手権 3 位の竹下雄登（日体大）、今年の同 3 位の新井陸人（自衛隊）ら国際舞台で実績のある選手がそろそろ。

さらに、昨年 61kg 級優勝の榊流斗（山梨学院大）、国体優勝の小野正之助（山梨学院大）、全日本選抜選手権 3 位の藤田雄大（自衛隊）、全日本大学選手権優勝の弓矢健人（日体大）、全日本学生選手権優勝の佐々木風雅（日大）、昨年の学生二冠王者の弓矢暖人（日体大）と実力者がそろっている。大激戦が予想される。

高校生として初めて U20（旧ジュニア）の世界選手権を制した西内悠人（高知・高知南高）の闘いぶりも注目される。

【61kg 級】

世界選手権優勝の樋口黎（ミキハウス）は階級を下げた。全日本選抜選手権 2 位の小川航大（自衛隊）、全日本大学選手権優勝の田南部魁星（日体大）、同 2 位の森田魁人（山梨学院大）、世界選手権出場の経験があり今年の全日本社会人選手権優勝の小柳和也（自衛隊）らによって、激しい闘いが展開されそう。

全国社会人オープン選手権優勝の吉村拓海（早大）、全日本選抜選手権 4 位の藤田颯（早大）らも優勝戦線へ浮上できる可能性を持つ。だれが勝ち抜くか。

【65kg 級】

東京オリンピック優勝の**乙黒拓斗（自衛隊）**が約 1 年 5 ヶ月ぶりに復帰する。強さは健在か。

明治杯全日本選抜選手権優勝で 2 年連続世界選手権代表の**山口海輝（日体大助手）**、アジア選手権 3 位と国際舞台でも結果を残し始めている。全日本選抜選手権 2 位で U23 世界選手権 3 位の**安楽龍馬（nobitel）**、全日本学生選手権と国体を制した**清岡幸大郎（日体大）**らが、どう挑むか。

明治杯全日本選抜選手権 61kg 級 3 位で、今月のワールドカップで 2 戦 2 勝の**森川海舟（拓大）**の闘いぶりにも注目。65kg 級でも通じるか。

全日本学生選手権 2 位の**諏訪間新之亮（国士舘大）**、全日本大学選手権で 1 年生王者に輝いた**荻野海志（山梨学院大）**らが、どこまで上位に食い込めるか。

【70kg 級】

世界選手権優勝の**成國大志（MTX GOLDKIDS）**がエントリー。明治杯全日本選抜選手権は優勝を逃し、プレーオフに勝っての世界選手権代表だった。世界王者の実力を見せて初の全日本制覇なるか。

挑む第一グループは、昨年の学生二冠王（全日本学生選手権、全日本大学選手権）で今年の全日本選抜選手権 2 位の**大野恵太郎（日体大）**、全日本大学選手権優勝の**青柳善の輔（山梨学院大）**。世界王者の牙城を崩せるか。

全日本学生選手権優勝の**渡辺慶二（日大）**、全日本社会人選手権優勝の**磯次郎（自衛隊）**、昨年 3 位の**計良涼介（早大）**、西日本学生選手権 2 連覇の**永松麗（周南公立大）**らが上位に食い込み、優勝争いに加われるか。

【74kg 級】

昨年優勝で全日本選抜選手権も制した**高谷大地（自衛隊）**が今回も実力を発揮するか。今年はアジア選手権で銅メダルを獲得し、世界選手権にも出場（10 位）と国際舞台の経験に恵まれた。全日本選抜選手権 2 位の**木下貴輪（クリナップ）**も、今月のワールドカップ（米国）に出場して実力アップをはかり、高谷へのリベンジに挑む。

続く選手は横一戦の状態。社会人では、全日本社会人選手権優勝の**梅林太朗（金太郎ホーム）**、同 2 位の**三輪優翔（ALSOK）**、昨年の世界選手権 70kg 級代表の**基山仁太郎（イカイ）**、国体 3 位の**志賀晃次郎（警視庁福生警察署）**、学生では、学生二冠王者（全日本学生選手権、全日本大学選手権）の**高田熙（日体大）**、昨年の世界選手権代表の**佐藤匡記（山梨学院大）**、国体優勝の**小柴伊織（日体大）**、全日本大学選手権 2 位の**深田雄智（早大）**。

さらに、全日本選抜選手権 70kg 級優勝で、U23 世界選手権 70kg 級 3 位の**高橋海大（日体大）**が階級を上げてエントリー。さらなる若手では、80kg 級高校三冠王者（全国高校選抜大会、インターハイ、国体）で U20 世界選手権 2 位の**神谷龍之介（三重・いなべ総合学園高）**の闘いにも注目。強豪を 1 人でも倒せるか。大激戦階級だ。

【79kg 級】

世界選手権代表の**高橋夢大（日体大）**は階級をアップ。空いた座を、全日本選抜選手権 2 位の**山崎弥十朗（サイサン）**、同 3 位の**村山貴裕（自衛隊）**、全日本学生選手権優勝の**山倉孝介（早大）**らが争う。山崎は 12 月のワールドカップに出場、山倉は 11 月の U23 世界選手権に出場し、それぞれ国際舞台の経験を積んだ。村山がベテランの味を出せるか。

2018 年大会優勝の**阿部侑太（秋田刑務所）**、2019 年大会で優勝し、翌年のアジア選手権 3 位の**奥井真吉（国士舘大）**らが意地を見せられるか。東日本学生選手権・新人戦の 70・74kg 級で春秋を制覇した**山路健心（早大）**、東日本学生選手権（春季）新人戦で両スタイルを制覇した**今井海陽（日大）**ら若い力の台頭はあるか。

【86kg 級】

昨年優勝で今年の世界選手権代表の**白井勝太（クインテット）**の連覇なるか。全日本選抜選手権で優勝しながら、プレーオフで白井に敗れて世界選手権を逃した**奥井眞生（自衛隊）**がリベンジするか。

世界選手権 79kg 級 7 位の**高橋夢大（日体大）**が階級を上げ、昨年の世界選手権 92kg 級代表の**大津拓馬（ALSOK）**が階級を下げて、それぞれこの階級にエントリー。階級変更の壁を乗り越えられるか。昨年 2 位の**松雪泰成（レスターホールディングス）**、2021 年世界選手権代表の**石黒隼士（自衛隊）**、同 79kg 級 5 位で階級を上げた**吉田隆起（自衛隊）**らも優勝争いに加わる力は十分。

全日本学生選手権優勝で U23 世界選手権でも優勝した**白井達也（日体大）**や、全日本大学選手権で 1 年生王者に輝いた**五十嵐文彌（山梨学院大）**が目立たなくなるほど強豪がそろっている階級だ。

【92kg 級】

東京オリンピック 86kg 級代表で、92kg 級で 2 連覇中の**高谷惣亮（ALSOK）**が引き続き強さを発揮するか。優勝すれば、74・79・86・92kg 級の 4 階級にわたって 12 年連続優勝となる。12 連覇は男女を通じて 2 位タイ。

全日本選抜選手権 2 位の**阿部光（中大）**、同 3 位の**三浦哲史（拓大）**がどう挑むか。阿部は U23 世界選手権に、三浦は U20 世界選手権とワールドカップに、それぞれ出場した。国際舞台での経験を生かせるか。

97kg 級で国体と全日本大学選手権を制した**吉田アラシ（日大）**、全日本大学選手権優勝の**坂井孝太郎（明大）**ら学生勢の打倒高谷の意気込みが期待される。

【97kg 級】

昨年優勝で今年 of 全日本選抜選手権も制し、2 年連続で世界選手権に出場した石黒峻士（新日本プロレス職）に、同 2 位の伊藤飛未来（日体大）が挑む。石黒は国体 125kg 級で優勝。伊藤も 97・125kg 級で学生二冠王者（全日本学生選手権・全日本大学選手権）に輝いた。上の階級でも通じる強さの激突となるか。

125kg 級で昨年大会と今年 of 全日本選抜選手権 2 位の二ノ宮寛斗（不二精機）が階級を下げてエントリー。今月のワールドカップ（米国＝125kg 級）に出場し、国際舞台での実戦も経験して 97kg 級に U ターン。

国体 2 位の園田平（自衛隊）、昨年 2 位で負傷が癒えて復帰参戦する吉田ケイワン（三恵海運）らを含めて、だれが勝ち抜くか。

【125kg 級】

世界選手権代表の山本泰輝（自衛隊）が 3 年連続 5 度目の優勝を目指す。明治杯全日本選抜選手権も今年 3 連覇を達成しており、国内では敵なしの存在。国際舞台に飛躍するためにも、快勝続きの優勝が望まれよう。

全日本選抜選手権 3 位の福井裕士（天理大コーチ）、全日本学生選手権優勝の出頭海（中大）、全日本社会人選手権優勝の山本康稀（日大クラブ）、JOC ジュニアオリンピック U20 優勝の藤田龍星（日大）らが、山本泰の進撃を止められるか。

◎男子グレコローマン

【55kg 級】

世界選手権代表の塩谷優（拓大）は階級を上げ、昨年の世界王者・松井謙（日体大）は不参加。全日本大学グレコローマン選手権優勝の岡本景虎（専大）と同 2 位の尾西大河（早大）が新王者を目指して激しい闘いを展開するか。尾西はで U20 世界選手権で 3 位に入賞と伸び盛り。

昨年の全日本学生選手権優勝の荒木瑞生（九州共立大）、全日本社会人選手権優勝の古家野蓮（自衛隊）、全日本学生選手権 3 位の向田旭登（専大）、全日本大学グレコローマン選手権 3 位の二宮健斗（日本文理大）らが優勝争いに加われるか。

2019 年大会以来の出場となる浅川享助（北杜クラブ）は、マットに立てば「51 歳 0 ヶ月 14 日」で出場となり、大会史上初の 50 代での出場へ。全日本選手権出場の前年最長記録を約 1 年 2 ヶ月更新する。

【60kg 級】

東京オリンピック 2 位・今年世界 3 位の文田健一郎（ミキハウス）に、55kg 級で 2 年連続優勝、今年の世界選手権 3 位の塩谷優（拓大）がこの階級にエントリーして挑むことになった。世界選手権代表同士の争いが実現するか。

明治杯全日本選抜選手権 2 位で国体を制した鈴木絢大（レスターホールディングス）、同 3 位の稲葉海人（日体大大学院）、全日本社会人選手権優勝の河名真偉斗（自衛隊）らが、下の階級からの挑戦者を退け、文田へ挑んで牙城を崩すか。55・59kg 級で世界選手権に 3 度出場した田野倉翔太（東京・自由ヶ丘学園高教）が復帰し、全国社会人オープン選手権優勝の実績で参加する。若手を脅かすだけでなく、優勝戦線に浮上するか。

【63kg 級】

明治杯全日本選抜選手権優勝で世界選手権代表、U23 世界選手権 3 位の池田龍斗（日体クラブ）に、U20 世界選手権 3 位・で全日本大学グレコローマン選手権優勝の丸山千恵蔵（日体大）が挑む。

全日本選抜選手権 3 位の小柴亮太（佐賀中部農林事務所）、昨年 3 位の矢部和希（栃木県スポーツ協会）、全日本社会人選手権優勝の藤波諒太郎（自衛隊）、全日本学生選手権優勝の澤田幸明（拓大）らが優勝争いに加われるか。

【67kg 級】

昨年優勝で全日本選抜選手権優勝の遠藤功章（東和エンジニアリング）に、全日本選抜選手権 2 位の曾我部京太郎（日体大）、同 3 位の清水賢亮（自衛隊）が挑む。遠藤はアジア選手権 3 位と力をつけ、曾我部は「ピトラシンスキ国際大会」（ポーランド）2 位、U23 世界選手権 3 位と国際舞台で結果を出し、国体で清水を破って優勝と実力を見せた。階級を上げて約 8 ヶ月の清水が巻き返すか。

フリースタイルの世界王者でグレコローマンにもエントリーした全日本社会人選手権優勝の成國大志（MTX GOLDKIDS）、全日本大学グレコローマン選手権 2 位の西田衛人（専大）、国体 2 位の北條良真（自衛隊）、同 3 位の井ノ口崇之（自衛隊）、全日本学生選手権 72kg 級 2 位の矢部晴翔（日体大）らが優勝戦線にからめるか。

【72kg 級】

昨年大会と今年 of 全日本選抜選手権を制した井上智裕 (FUJIOH) は不出場。空いた座を狙う一番手は、全日本選抜選手権 2 位で世界選手権出場の堀江耐志 (自衛隊) か。昨年のアジア選手権 3 位の実績を持っている。

全日本選抜選手権は堀江に完敗だったが、春日井湧雅 (日体大) が全日本学生選手権と全日本大学グレコローマン選手権を制するなど急成長を見せている。堀江へのリベンジ、そして優勝なるか。全日本選抜選手権 3 位の小林大悟 (拓大)、国体 2 位の中田翔輝 (日体大) の学生選手が優勝争いに加われるか。

【77kg 級】

東京オリンピック 3 位の屋比久翔平 (ALSOK) に、今年のアジア選手権 3 位の櫻庭功大 (自衛隊)、全日本選抜選手権 2 位の前田明都 (レスターホールディングス) が挑む。オリンピック銅メダリストの牙城を崩せるか。

前田は 7 月の「ピトラシンスキ国際大会」(ポーランド) で屋比久と闘い、逆転負けを喫したが、追い詰めるだけの实力を見せている。櫻庭は手術でブランクがあったが、国体で優勝し復活を印象づけた。

全日本選抜選手権 77kg 級 3 位の藤井達哉 (後藤回漕店) がこの階級にエントリーした。体重調整を乗り越えて優勝争いに加われるか。

2 年連続全日本学生選手権優勝で今年 of U23 世界選手権 3 位の日下尚 (日体大)、全日本大学グレコローマン選手権優勝の水口竣介 (拓大)、全日本学生選手権 2 位の山田脩 (日体大)、JOC ジュニアオリンピックカップ U20 優勝の堀北一咲望 (日体大) らの学生選手の台頭にも期待がかかる。

【82kg 級】

昨年優勝で今年 of 全日本選抜選手権も制した世界選手権代表の岡嶋勇也（警視庁）に挑むのは、昨年大会と全日本選抜選手権でともに 2 位の田中真男（奈良・天理教校学園高教）か。3 度目の決勝対決、そして 3 度目の正直なるか。

2 年連続全日本学生選手権優勝の樋口徹心（日体大）は U23 世界選手権を経験。フリースタイルで東日本学生選手権を制するなど実戦を数多く積み、初の全日本制覇を目指す。2017・18 年世界選手権代表で、しばらくマットから遠ざかっていた前田祐也（鳥取県協会）が、どの程度、力をキープしているか。

全日本大学グレコローマン選手権優勝の谷崎大造（山梨学院大）、全日本学生選手権 2 位の玉岡颯斗（早大）、JOC ジュニアオリンピックカップ U20 優勝の山口蓮汰（神奈川大）らを含めた学生選手が、社会人の壁を破って頂点を目指すべく状況。

【87kg 級】

全日本選抜選手権の優勝＝角雅人（自衛隊）、2 位＝阪部創（自衛隊）、3 位＝塩川貫太（長野県協会）がそろい、またも激闘が展開されそう。角と阪部は 2020 年大会決勝での対戦は阪部が勝ち、昨年大会と今年 of 全日本選抜選手権は角が勝っている。直近の対戦成績では角に分があるが、今回も実現すれば、どちらに軍配が上がるか。

全日本社会人選手権 82kg 級優勝の川村洋史（自衛隊）、87kg 級の選手だが全日本大学グレコローマン選手権 97kg 級に出場して優勝した宮本海渡（日体大）、JOC ジュニアオリンピックカップ U20-87kg 級優勝の岩井知史（明大）らが三強の一角を崩し、優勝争いに加わるか。

【97kg 級】

世界選手権代表の鶴田峻大（自衛隊）は負傷箇所の手術で欠場。全日本選抜選手権で優勝しながら世界選手権を逃した仲里優力（佐賀県スポーツ協会）と同 3 位の奈良勇太（警視庁）の争いとなるか。仲里は国体優勝と実力を見せている。2017～19・21 年世界選手権代表の奈良が世代交代を阻止するか。

2020 年大会優勝で昨年 3 位の天野雅之（中大職）は、34 歳ながら国体 2 位と実力をキープ。全日本学生選手権 2 位の加藤大翔（国士舘大）が社会人選手の中で台頭したいところ。

【130kg 級】

昨年、8 連覇を達成した園田新（ALSOK）は負傷箇所の手術に踏み切り、リハビリのため不出場。明治杯全日本選抜選手権は不出場だったが、国民体育大会と学生 2 大会（全日本学生選手権、全日本大学グレコローマン選手権）を制した奥村総太（拓大）が空いた座を奪えるか。11 月にはフリースタイルの全日本大学選手権にも出場し（5 位）、スタイルを超えて実戦を積んでいる。

全日本選抜選手権 2 位で U23 世界選手権出場の経験を積んだ西村麻凜（国士舘大）、昨年の全日本大学グレコローマン選手権優勝で今年の全日本学生選手権 2 位の小畑詩音（日体大）、JOC ジュニアオリンピックカップ U20 優勝の山田康瑛（山梨学院大）らが台頭するか。

◎女子

【50kg 級】

東京オリンピックと今年の世界選手権を制した**須崎優衣（キッツ）**が、引き続きの強さをみせるか。今年は U23 世界選手権も制し、無敵の快進撃が続けている。明治杯全日本選抜選手権とプレーオフで及ばなかった昨年の世界チャンピオン、**吉元玲美奈（至学館大）**が巻き返すか。

昨年 2 位で今年の世界選手権を制した**伊藤海（早大）**が、両者を破るまでに実力を伸ばしているか。53kg 級で闘っていて階級を下げた**入江ななみ（ミキハウス）**、2019 年世界選手権代表で復帰した姉・**田中ゆき（佐賀県スポーツ協会）**、全日本選抜選手権 3 位の**中村未優（Sports Design Lab）**らが優勝争いに

【53kg 級】

東京オリンピック 53kg 級優勝の**志土地真優（ジェイテクト）**が、今年の世界選手権 55kg 級優勝を経て、本来の階級に落としてきた。負傷で今年の世界選手権の出場を取りやめたが、昨年の世界チャンピオンの**藤波朱理（日体大）**がエントリー。両選手の激しい闘いが展開されそう。

全日本選抜選手権 2 位で国体と U23 世界選手権を制した**奥野春菜（自衛隊）**が、2 人の優勝争いを阻止し、栄冠を引き寄せられるか。

U20 アジア選手権優勝の**大野真子（日体大）**、U20 世界選手権 3 位の**木村彩夏（法大）**、全日本学生選手権優勝の**下野佑実（育英大）**らが、次代に期待を感じさせる闘いができるか。

【55kg 級】

明治杯全日本選抜選手権優勝で世界チャンピオンの志土地真優（ジェイテクト）は階級を下げた。同 2 位で U20 と U23 の世界選手権を制した清岡もえ（育英大）が初の全日本制覇を目指す。今月のワールドカップにも出場し、国際舞台を数多く経験。その成果を発揮できるか。

昨年 3 位の吉柴未彩輝（大東大）、全日本学生選手権 53kg 級 2 位でワールドカップ同級で 2 戦 2 勝の片岡梨乃（早大）、U20 世界選手権 57kg 級優勝の岩網瑠夏（至学館大）らが、どこまで食いつけるか。

【57kg 級】

昨年優勝で今年の世界選手権でこの階級初優勝、55kg 級と合わせて 2 連覇の櫻井つぐみ（育英大）に、昨年大会と今年全日本選抜選手権決勝でいずれも惜敗した南條早映（東新住建）が挑む闘いが継続されるか。南條も U23 世界選手権で優勝し、国際舞台で結果を出している。

アジア選手権 55kg 級優勝の今井佑海（日大）が階級を上げ、同 59kg 級を制した岩網さら（至学館大）が下げて、それぞれエントリー。2 人のアジア・チャンピオンが階級変更の壁を乗り越えられるか。

全日本選抜選手権 3 位の永本聖奈（至学館大）、全日本女子オープン選手権優勝の田南部夢叶（レスターホールディングス）、昨年 55kg 級 2 位の田村生吹（日体大）らが優勝戦線に浮上してくるか。

【59kg 級】

東京オリンピック 57kg 級優勝の**金城梨紗子**(サントリービバレッジソリューション)が、この階級にエントリーした。復帰後の第 1 戦だった 10 月の全日本女子オープン選手権同級は、快勝続きで優勝している。1 階級上の全日本の舞台でも強さを見せられるか。

U23 世界選手権優勝の**徳原姫花**(自衛隊)、昨年 62kg 級 3 位の**坂野結衣**(警視庁)がどう挑むか。ともに今月のワールドカップ(米国)に出場し、国際舞台で実力を試して挑む。世界選手権 59kg 級 2 位で**花井瑛絵**(三重・朝明高教)が、しばらくマットを離れていたあと復帰。国体で優勝し実力を見せた。金城の牙城を崩せるか。

【62kg 級】

今年の世界選手権代表を争い、勝って代表となり、そのあと世界チャンピオンに輝いた**尾崎野乃香**(慶大)と、僅差で敗れた東京オリンピック優勝の**川井友香子**(サントリービバレッジソリューション)が再度激突するか。紙一重の激戦が展開されそう。尾崎は今年、アジア選手権、U20 世界選手権、U23 世界選手権でも優勝し、国際大会で優勝を重ねた。

59kg 級で世界選手権 3 位の**元木咲良**(育英大)が階級を上げてエントリーした。初めて挑む階級で結果を出せるか。U23 世界選手権で 2 度優勝の経験がある**源平彩南**(アイシン)、3 世代で世界チャンピオンになっている**稲垣柚香**(至学館大)、2020 年 65kg 級アジア・チャンピオンの**類家直美**(至学館大)、全日本女子オープン選手権優勝の**小玉彩天奈**(MTX ACADEMY)らも二強に挑む。

【65kg 級】

世界チャンピオンの森川美和（ALSOK）をはじめ、全日本選抜選手権 1～3 位の選手は階級を変えた。空いた座を狙う候補は、2019 年 U23 世界選手権優勝の榎本美鈴（自衛隊）、今年の U20 世界選手権優勝の吉武まひろ（日体大）か。榎本は第一線を退いていたが、復帰して全日本女子オープン選手権で優勝。決勝では吉武にテクニカルフォール勝ちする変わらぬ実力を見せた。

全日本学生選手権 2 位の平井かえで（日体大）、同 3 位の寺本鈴（山梨学院大）、同 68kg 級 2 位の高田ここな（日体大）らの学生選手もチャンスを生かしたところ。次代を目指す選手では、昨年のインターハイ 68kg 級で 1 年生チャンピオンに輝いた北出桃子（愛知・至学館高）、U17 世界選手権優勝の佐藤杏樹（秋田・秋田商高）の闘いぶりが注目される。

【68kg 級】

世界選手権 65kg 級優勝の森川美和（ALSOK）が階級を上げ、72kg 級 3 位の古市雅子（自衛隊）が階級を下げ、この階級の世界選手権 2 位の石井亜海（育英大）に挑む。世界トップ 3 選手の争いは、だれが勝ち抜くか。

昨年の世界選手権でオリンピック女王を破って 2 位の宮道りん（日体大）、全日本選抜選手権 65kg 級 2 位の今井海優（自衛隊）、昨年大会で石井を破って優勝した松雪成葉（ジェイテクト）らも優勝を目指せる実力は十分。

【72kg 級】

世界選手権 3 位の古市雅子（自衛隊）は階級を下げた。昨年優勝の**新倉すみれ（神奈川大）**が、世界選手権出場を逃した悔しさをぶつけて連覇を達成できるか。シニアのアジア選手権（2 位）と U20 世界選手権（3 位）、U23 世界選手権（3 位）に出場して経験を積んだ。

昨年の決勝で敗れた**進藤芽伊（クリナップ）**のリベンジなるか。全日本学生選手権と全日本女子オープン選手権で優勝した**塩沢和（育英大）**、全日本選抜選手権 3 位で U20 アジア選手権優勝の**藤倉優花（育英大）**らが優勝争いに加われるか。

【76kg 級】

昨年優勝で、アジア選手権 2 位、全日本選抜選手権優勝を経て、世界選手権 3 位の**鏡優翔（東洋大）**が、その勢いを続けられるか。全日本選抜選手権決勝で鏡に敗れた**松雪泰葉（ジェイテクト）**がリベンジに挑む。U23 世界選手権に出場して 3 位入賞の経験を生かせるか。

昨年 2 位で、今年は U20 アジア選手権と全日本学生選手権を制した**山本和佳（至学館大）**が両者の壁に挑む。直前のワールドカップ（米国）に出場し、実戦経験を多く積んでいる。インターハイ 2 連覇で U20 世界選手権を制した**茂呂綾乃（東京・安部学院高）**が一気に栄冠を獲得するか。2018 年 4 月のジュニアクイーンズカップ（中学生の部）から、国内外 13 大会連続優勝中だ。

2024 年パリ・オリンピック／日本代表選手選考規定

《2023 年世界選手権でオリンピック出場枠を取った場合》

- (1) 2023 年世界選手権でメダルを獲得した選手は、オリンピックの日本代表に内定
- (2) 2023 年世界選手権で出場枠を獲得したが、メダルを獲得できなかった選手（5 位の選手）は、2023 年天皇杯全日本選手権で優勝すればオリンピックの日本代表に内定
- (3) 上記の選手が全日本選手権で優勝できなかった場合、2023 年天皇杯全日本選手権優勝選手と、後日、プレーオフを実施し、勝者を日本代表に内定。プレーオフは、全日本選手権から 1 ヶ月以内にリミット計量で実施する。

《2023 年世界選手権でオリンピック出場枠を獲得できなかった場合》

- (1) 2023 年天皇杯全日本選手権優勝選手を、2024 年のオリンピック・アジア予選と世界最終予選に派遣する。
- (2) 2023 年天皇杯全日本選手権優勝選手がけがで上記予選に出場できなかった場合は、全日本選手権 2 位の選手を予選に派遣する。
- (3) 全日本選手権 2 位の選手が上記予選でオリンピック出場枠を獲得した場合、当該選手と全日本選手権優勝選手との間でプレーオフをリミット計量で実施し、勝者をオリンピックの日本代表に内定。

2023 年世界選手権／日本代表選手選考規定

《オリンピック実施階級》

- (1) 2022 年天皇杯全日本選手権と 2023 年明治杯全日本選抜選手権の優勝選手が同じ場合、当該選手に世界選手権出場権を与える。
- (2) 2022 年天皇杯全日本選手権と 2023 年明治杯全日本選抜選手権の優勝選手が異なる場合、当該 2 選手にて、日を改めてプレーオフを行い、勝者を代表選手とする。

(3) プレーオフは

①出場は明治杯全日本選抜選手権のエントリー階級とする

②日程は、2023 年全日本社会人選手権と同日とする

③計量はリミットで行う。

(4) 補欠選手は、

①2022 年天皇杯全日本選手権と 2023 年明治杯全日本選抜選手権の優勝選手が同じ場合は、明治杯全日本選抜選手権 2 位の選手とする

②2022 年天皇杯全日本選手権と 2023 年明治杯全日本選抜選手権の優勝選手が異なる場合は、プレーオフの敗者とする。

《非オリンピック階級》

(1) 世界選手権派遣選手選考プレーオフを実施し、その勝者を派遣選手とする。

(2) 上記プレーオフへの出場資格は

①当該階級における 2022 年天皇杯全日本選手権の優勝者

②当該階級における 2023 年明治杯全日本選抜選手権の優勝者

③2022 年天皇杯全日本選手権および 2023 年明治杯全日本選抜選手権のオリンピック階級で 2 位以内に入賞した選手

(3) 非オリンピック階級のプレーオフは、オリンピック階級のプレーオフの実施後 2 週間をめどに、リミット計量で実施する。